

[部会の主な意見]

- 1 小児科医師数が増えていることで、指標の改善となっているが、医療現場の実態と乖離がある。単純な小児科医師数ではなく、小児科医の偏在指標等に置き換えるべきではないか。
- 2 小児科医師数は、診療所と小児救急病院の医師数を分けて把握する必要があるのではないか。
- 3 コロナ禍の状況を基準値として設定することが適切なのか検討する必要があるのではないか。
- 4 在宅医療については、現計画の中間見直し時に、計画変更を行う必要があるのではないか。

施策(取組)とアウトカムの整合性 (セオリー評価)

・中間評価に向けて引き続き整理を行う。

施策(取組)の実施状況 (プロセス評価)

・計画で設定した個別施策に基づき取組を実施した。

施策(取組)がアウトカムに及ぼす効果 (インパクト評価)

・13指標のうち、5指標が改善した。
・個別施策の指標については、まだ設定されていないため引き続き議論していく。

今後の取組方針 (総合評価)

次年度末の中間見直し時において、小児医療分野の在宅医療については、ロジックモデルの再作成を行うなど、医療計画の変更を行うことを検討する。

その他の小児医療分野については、アウトカム指標のインパクト評価が適切に行える指標の入替と個別施策の設定等を行うことを検討する。